

あっ!

# 高齢者の交通事故が増えています



近年、交通事故による死者の数は減少傾向にあります。平成17年中の交通事故による死者数は全国で6,871人で、5年連続、減少しています。しかし、その中に占める65歳以上の高齢者の割合は増加しています。

その大きな要因として、実際の交通事情と高齢者の意識、運動能力、体力の差があげられます。

このような高齢者の交通行動の特徴を、高齢者と周囲の人の双方が理解し、高齢者の交通事故を未然に防ぎましょう。



財田町では、昨年1月から1年間で5件の死亡事故が発生しており、1月30日、緊急に交通事故抑止市民大会を開催しました。その後、支所前での交通キャンペーン、町内の交通安全パレードを行いました。

## 6割強が自宅から500メートル以内で発生

平成15年の調査によると、高齢者の交通事故のうち、6割強は自宅から500メートル以内の場所で事故にあっています。

自宅の周辺は長年暮らしている地域であることから、交通事情が変化していても、その変化にあまり気づかず、警戒心が薄くなりがちです。

交通量が増加しても慣れている地元の道だと思っただけで横断歩道のないところを渡ったり、自分の家の前だからと周囲を確認せず道路を横断したりすることがあります。

高齢者の事故が起こる原因の一つに、こうした実際の交通事情と自分の意識に差があることがあげられます。

## 事故の一因は高齢者の意識と行動の差

視力や聴力、運動能力などは、年齢とともに衰えるものです。しかし、高齢者の中には、それらが若いときと変わらないと考えている人も少なくありません。

例えば、道を横断するとき、高齢者側からは車が迫っていることがちゃんと分かっているのに、自身の歩く速度が思ったよりも遅くなっていて、道路を渡りきることができないというケースも多く見られます。

また、高齢になるにつれて体を支える筋力が低下するため、高齢者の多くはうつむき加減で歩くようになります。その結果、視野も狭くなりがちで、近づいてくる車や自転車などの発見が遅れたり、自分との距離を正しく判断したりすることが難しくなります。

こうした高齢者の意識と実際の運動能力などの差から、重大な交通事故が起こっているのです。

## 交通安全アドバイス 見える歩行者になりましょう!

夕方や夜の時間帯には、ドライバーや自転車などから見たときの歩行者は、昼間とは比べ物にならないほど見えにくくなります。高齢者の皆さんは地味な色の服を着ることが多いため、特に注意が必要です。夜間の交通事故を防ぐために、ドライバーから見えやすい服装を心がけましょう。

- ★ 白は光を反射しやすく、いつもの服装の上に、一枚白い服をはおるだけでもドライバーから見やすくなります。
- ★ 光を反射する反射材を靴や帽子につけたり、鞆などに反射材を使ったキーホルダーなどを取り付けたりすることも効果的です。

